

ブロッコリー*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木立枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
Zボルドー水	M1		-	-								◎		◎	
クプロシールドFL*2	M1		*h	-									◎	◎	
コサイド3000DF	M1		-	-										◎	
マスタピース水	NC		1	-									◎	◎	◎
スターナ水	31		14	2									◎	◎	◎
トップジンM水㊟	1		14	2				◎			◎				
ベンレート水㊿	1		7	3				◎			◎				
エトフィンFL	22		1	3			◎								
アフエットFL*2	7		1	3				◎		◎	◎				
カンタスDF	7		7	2				◎							
カナメFL	7	劇	1	3				◎		◎					
ケンジャFL*2	7		1	3				◎		◎					
パレード20FL*2	7		1	3				◎		◎					
		*i	1	☆				◎		◎					
アミスター20FL	11		1	3			◎	◎		◎					
スクレアFL	11		1	3				◎		◎					
ファンタジスタ顆水*2	11		3	3				◎		◎					
メジャーFL	11		1	3			◎	◎		◎					
オラクル顆水	21		*g	2		◎									
				1	☆	◎									
オラクル粉	21		*g	2		◎									
ライメイFL	21		7	4			◎								

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木立枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
ランマンFL	21		3	3			◎								
			14	1		◎									
			*f	1	☆	◎									
フロンサイドSC	29		*g	1		◎									
フロンサイド粉	29		*b	1		◎									
セイビアーFL20	12		3	3				◎							
レーバスFL	40		7	2			◎								
オリゼメート顆水	P2		*a	1	☆						◎	◎			
リゾレックス水	14		*e	2					®						
			21	1					®						
オリゼメート粒	P2		*a	1							◎				
ネビジン粉	36		*b	1		◎									
ネビリュウ粉粒	36		*b	1		◎									
ピシロックFL*2	U17		1	2			◎								
バリダシン液5	U18		1	3							◎				◎
キノンドー水40	M1		14	3							◎	◎			
ダコニール1000FL	M5		*d	2			◎								
			*a	1		◎									
フォリオゴールドFL	4・M5		*d	2			◎								
カセット水	31・24		14	2							◎				
ナレート水	31・M1		14	2						◎					◎
ダコレート水◎	1・M5		*d	2			◎	◎							
シグナムWDG*2	7・11		7	2			◎	◎		◎					

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木立枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
ベジセイバーFL	7・M5		*d	2			◎	◎		◎					
ユニフォーム粒	11・4		*g	1			◎								
ホライズンDF	11・27		1	3			◎			◎					
カスミンボルドー水	24・M1		7	4								◎			
プロポーズ顆水	40・M5		*d	2			◎								

*1:茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類、あぶらな科野菜(花蕾及び茎)、はなやさい類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

*2:「はなやさい類」での登録

Ⓐ:チオファネートメチル含有剤 Ⓑ:ペノミル含有剤 Ⓒ:使用した場合には同じ作でのⒶは使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a:定植時 *b:播種又は定植前 *d:出蕾前(但し収穫21日前まで) *e:育苗期

*f:定植前日～当日 *g:定植前 *h:発病前～発病初期 i:育苗期後半～定植当日

Ⓓ:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

ブロッコリー*1(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	ヒ メ ダ イ コ ン バ エ	カ ブ ラ ハ ム シ 類	ア オ ハ ム シ 類	コ ナ ガ シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ シ	ヨ ト ウ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ 類	ウ ワ バ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ シ マル ト ビ ム シ				
スピノエース顆水	5		3	3						◎	◎														
オルトラン粒	1B		*d	1		◎				◎			◎				◎								
ジェイエース粒	1B		*d	1									◎												
ダイアジノン乳40	1B		30	2		◎				◎	◎							◎				◎			
ダイアジノン粒5	1B		*f	2													◎					◎			
			*d	1													◎								
			30	2															◎						
ダイアジノン粒10	1B	劇	30	2												◎									
マラソン乳	1B		3	5		◎	◎		◎	◎															
プリンス粒	2B		*h	1	◆								◎												
			*m		▲					◎															
			*n		△						◎														
アディオン乳	3A		3	5		◎				◎							◎								
			7	5	株													◎							
ガードバイトA粒	3A		*L	5													◎								
トレボン乳	3A		1	3						◎															
フォース粒	3A	劇	*d	1													◎								
アクタラ粒5	4A		*a	1						◎	◎	◎													
			*h	1							◎														
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎																			
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2		◎																			
アドマイヤー1粒	4A		*d	1		◎																			
アルバリン顆溶	4A		3	2		◎																			
スタークル顆溶			*d	1	☆							◎													
ダントツ溶	4A		3	3		◎				◎	◎														
ダントツ粒	4A		*a	1		◎				◎	◎	◎													
			*a		▲	ギ		◎	◎	◎															
			*d		◎		◎	◎	◎																
			*h		◇		◎						◎												
			*h		◆		◎							◎											
ベストガード溶	4A		1	3		◎	◎																		
ベストガード粒	4A		*d	1		◎	◎																		
			*a		◎	◎																			
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3		◎	◎			◎	◎														
モスピラン粒	4A		*e	1		◎				◎	◎	◎													
			*d		◎		◎		◎																
トランスフォームFL	4C		1	3		◎																			

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ エ	ヒ メ ダ イ コ ン バ エ	カ ブ ラ ハ ム チ	ア オ ハ ム シ	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ シ マル ト ビ ム シ	
フィールドマストFL*2	4E		3	2						◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ディアナSC	5		1	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
ラディアントSC	5		1	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
アニキ乳	6		3	3						◎	◎			◎	◎								
アフーム乳	6		3	3						◎	◎		◎	◎		◎							
コルト顆水	9B		1	3		◎																	
コテツFL	13	劇	3	2						◎	◎		◎	◎	◎								
パダンSG溶	14	劇	7	4							◎												
リーフガード顆水	14	劇	7	3		◎					◎												
アタブロン乳	15		21	2						◎	◎						タ						
カウンター乳	15		7	2								◎											
カスケード乳	15		7	2			◎			◎	◎		◎	◎									
マッチ乳	15		7	3										◎									
ファルコンFL	18		3	2									◎	◎									
マトリックFL	18		1	3									◎										
ハチハチ乳	21A	劇	7	2		◎				◎	◎												
トルネードエースDF	22A		14	2						◎	◎			◎	◎		◎						
ファイントリムDF	22A		14	2						◎	◎			◎	◎								
アクセルFL	22B		1	2							◎		◎	◎									
アクセルベイト粒	22B		1	2															◎		◎		
モベントFL	23		7	3		◎	◎			◎	◎												
フェニックス顆水	28		1	2							◎	◎	◎	◎									
ブリロツ粒オメガ	28	*i	1	▲	◎	◎				◎	◎												
		*j	1		◎	◎				◎	◎												
ブレバソンFL5	28	*i	1	☆						◎	◎			◎									
			1	3						◎	◎			◎		◎							
ブレバソン粒	28	*i	1	▲						◎	◎												
		*j	1							◎	◎												
ベネピアOD	28		1	3		◎	◎			◎	◎			◎	◎								
バリマークSC	28	*i	1	☆	◎	◎				◎	◎	◎		◎	◎								
ヨーバルFL	28		1	3		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎						
		*i	1	☆	◎					◎	◎	◎	◎	◎				◎					
ウララDF	29		1	2		◎																	
グレーシア乳*2	30		7	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
プロフレアSC*2	30		1	3						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー^{*1}(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	ヒ メ ダ イ コ ン バ エ	カ ブ ラ ハ ム チ	ア オ ハ ム シ	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ シ マ ル ト ビ ム シ			
ファインセーブFL	34	劇	3	2		◎				◎	◎														
プレオFL	UN		7	2							◎			◎	◎										
キックオフ顆水	4A・ 28		*k	1	☆	◎		◎		◎	◎			◎											
ジュリポFL	4A・ 28		*i	1	☆	◎	ギ			◎	◎	◎		◎											
			1	3		◎				◎	◎			◎											
ミネクトデュオ粒	4A・ 28		*c	1		◎	◎			◎	◎	◎													
			*d			◎	◎			◎	◎														
			*h									◎													
			*n										◎												
アフームエクセラ顆	6・ 15		7	3						◎	◎	◎		◎	◎										
ヨーバルターポFL	23・ 28		7	3		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎			◎								

***1: 茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。**

*2: 「はなやさい類」での登録

☆: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

◇: 覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

◆: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。

△: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。

▲: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

株: 株元灌注

*a: 育苗期後半 *b: 定植前まで *c: 播種覆土後～育苗期後半 *d: 定植時

*e: 定植前日～定植当日 *f: 播種時又は定植時 *h: 播種時

*i: 育苗期後半～定植当日 *j: 育苗期後半～定植時 *k: 定植前日～定植時

*l: 生育初期 *m: 播種時～定植前 *n: 播種前

ギ: ネギアザミウマ タ: タマナギンウワバ

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
病害	春まき		—			—							
	黒腐病		—										
	夏まき (秋どり)						—		—				
	黒腐病							—		—			
虫害	コナガ		—			—				—			
	アオムシ (モンシロチョウ)			—		—				—			
	ヨトウムシ								—		—		
	アブラムシ類		—		—					—			

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期

病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

ブ
ロ
ッ
コ
リ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 3. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 4. 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクル粉剤 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 全面処理 20~30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイド粉剤 全面処理 30~40kg/10 a 作条処理 15~20kg/10 a 5. 定植前日~当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 ランマンフロアブル△ 500倍 	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年は、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培し、秋も連作すると多発しやすい。 トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10~15cmの土壌と十分に混合する。 △ 2 L/セル成型育苗トレイ(30×60cm、土壌量約2.5~7L)
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣を丁寧に処分し畑にすきこまないようにする。 	

ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種をさけ、苗床の過湿に注意する。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。 # リゾクトニア菌にのみ有効。
	育苗期	・ 次の薬剤を3 L/m ² 灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
黒腐病	播種前	・ 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科植物に発生し、土壤伝染する。 病原細菌は葉緑の水孔および葉や茎に生じた傷口から侵入する。ブロッコリーは本病に感受性が高い。 5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。特に台風後に多発し、害虫などによる食害は発生を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. 害虫の防除を行う(害虫の項参照)。 2. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 キノンドー水和剤40 800倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 台風などで茎葉が傷ついたときはただちに上記薬剤を散布する。	
根朽病	播種前	・ 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壤伝染する。 秋どりの幼苗期～生育中期にかけて発生が多く、強風は本病の発生を助長する。
	育苗期～生育期	1. 植え傷み、特に地際部の傷に注意する。 2. 発病株は早めに処分する。 3. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ベンレート水和剤 2000倍 アフエットフロアブル 2000倍	
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 3000倍 ウララDF 2000～3000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	

ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 1000～2000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
コナガ		・広範な地域で設置可能であればコナガコンプラス◇のいずれかの剤を、作物の上に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10 a ロープ状製剤 20～40m/10 a	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には心葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。
	育苗期	1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 ダントツ粒剤 株元散布 #2 0.5 g/株 プレバソンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍 プレバソン粒剤 株元散布 #4 1 g/株	◇成虫の交尾阻害が目的。使用にあたっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。オオタバコガ・ヨトウムシに対する登録も持つ。 #1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)あたり0.5L。 土耕の育苗床では使用できない。 #2育苗期後半 #3育苗期後半～定植当日 #4育苗期後半～定植時
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバソンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録

ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期	1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを株元処理する。 ダントツ粒剤 育苗期後半 0.5 g/株 プレバソン粒剤 育苗期後半～定植時 1 g/株 モスピラン粒剤 定植前日～定植当日 0.5 g/株	夏が高温乾燥の時に多発する傾向がある。幼苗期に加害されると芯止まりとなり被害が大きい。
	幼苗期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 プレバソンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを葉裏に丁寧に散布する。 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 グレーシア乳剤 2000～3000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 若齢期は表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。
ハスモン ヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	春から初冬まで数回発生するが、多くなるのは8月下旬以降である。 中齢以降には薬剤が効きにくい。
ネキリムシ類	定植時～ 生育初期	1. 定植時に次の薬剤を土壌表面散布する。 ダイアジノン粒剤5 6 kg/10 a 2. 生育初期に次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトA(粒) 3 kg/10 a	発生量が多くない時は、被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
キボシマル トビムシ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダイアジノン乳剤40 700倍	